

所 報

くしる

No.287

釧路教育研究所

平成30年 10月

平成30年度 釧路教育研究所 夏季研修会の報告

7月30日（月）、釧研所員および各町村研究所員が一同に集い、「平成30年度釧路教育研究所夏季研修会」を釧路教育研究センターで行いました。今年度は「釧研の推進している研究内容」「研究協力校の研究・実践」について説明が行われました。また、釧路教育局より田中陽一指導主事をお招きして、「特別の教科 道徳」の特質に関する理解、「特別の教科 道徳」の評価、町内・校内研修の一層の充実に向けてという内容でわかりやすく解説して頂きました。



講義の後『今後、必要な「特別の教科 道徳」における準備について』というテーマでグループ討議を行い、今後の課題等について深め合うことができました。

今回の夏季研修会で学んだことを生かして、釧路管内の教育に携わるみなさん一人ひとりの教育実践にお役立てできるよう、研究部・事業部が一丸となって研究を推進していきます。また、お忙しい中にも関わらず平成30年度釧路教育研究所夏季研修会にご参加くださった各町村研究所の所員のみなさん、本当にありがとうございました。



※研究協力校の研究・実践については、次のページに「鶴居中学校の研究」の概要を掲載しています。

特色ある教育

釧路教育研究所

研究協力校

鶴居村立鶴居中学校

今年度、研究協力校の指定を受けています。本校では以下のような研究主題を設定し、3年計画で研究を推進しています。その一部を紹介します。

研究主題

意欲的に学習に取り組み、学び合う生徒の育成

～主体的・対話的な学びの工夫を通して～

目指す生徒像

昨年度末に「学習に関するアンケート」を実施



○課題解決に対する意欲の高さ
●考えを表現することの弱さ、目標をもち学ぶ意識の低さ



- ・新たな価値や最善解を見出す
- ・見通しをもち、粘り強く考える
- ・他者と協働し、個や集団の考えを発展させる

研究仮説

各教科等において、単元や題材のまとまりの中で課題解決的な学習を計画し実践することで、主体的に考え問題解決に取り組み、多様な考えに触れる場面が設定され、新たな価値を見出し、自らよりよい考えを導くことができるだろう。

研究の内容

視点1：単元構成の工夫	視点2：課題解決的な学習の指導過程の工夫	視点3：対話的な学びの充実
<p>1. 単元構成の工夫</p> <p>(1)「資質・能力」と「単元の目標」、「一単位時間の目標」との関連の明確化</p> <p>(2)「資質・能力」をどの段階でどのように身に付けさせるのかを明確にする</p> <p>(3)「課題設定・解決の見通し」の場面を重視し、興味関心を高め、問題意識をもたせる</p> <p>(4)「指導内容」をどのように構成すると「主体的に学び、思考が深まるか」を考える</p> <p>(5)「振り返り」の場面において、充実感・達成感を実感できるような工夫をする</p> <p>2. 単元構成の基本モデル</p> <p>(1) 課題設定</p> <p>(2) 解決の見通し</p> <p>(3) 追究活動</p> <p>(4) まとめ、振り返り</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>つかむ・見通す</p> <p>↓</p> <p>追究する</p> <p>↓</p> <p>振り返る・生かす</p> </div>	<p>1. 課題解決的な指導過程の工夫</p> <div style="margin-top: 10px;"> <p>第1段階：学習課題の提示</p> <p>第2段階：解決の見通し</p> <p>第3段階：自力解決</p> <p>第4段階：協働解決</p> <p>第5段階：一斉検証</p> <p>第6段階：まとめと振り返り</p> </div> <p>2. 課題提示の工夫</p> <p>(1) 魅力的な学習課題の設定</p> <p>(2) 問題意識をもたせる課題の提示</p> <p>3. まとめと振り返りの充実</p>	<p>1. 学習モデルの活用</p> <p>(1)各教科の特色を生かした学習モデルの活用</p> <p>①話し方、書き方、考え方のヒントを与える</p> <p>②学習活動の流れや段取りのあり方を示す</p> <p>③活動や作品の完成イメージの例示</p> <p>(2)「話型」の作成と活用</p> <p>(3)「話し合い活動」の充実</p> <p>①話し合い活動のマニュアルの活用</p> <p>②ブレインストーミング、KJ法、ジグソー学習など、色々な方法を活用する</p> <p>2. 「学習ツール」の活用</p> <p>(1) 操作ツールの活用 ホワイトボード、付箋紙、カードなど</p> <p>(2) ICT機器の活用 プロジェクター、動画機能の活用など</p> <p>(3) 思考ツールの活用 イメージマップ、ステップチャートなど</p>

一学期は、今年度の研究についての方向性を確認し、単元の指導計画のつくり方の演習や、研修部による試行授業を実施することで、授業づくりのイメージを具現化しました。さらに指導案の形式の確認や授業評価についての研修を行い、夏季休業中に指導案を作成しました。今後は【釧路研究内容】を参考にしながら研究を深め、全員の授業公開と事後研を実施し、今後の授業改善につなげていこうと考えています。

釧研講座報告

たくさんのご参加、ありがとうございました。

今年度も先生方のニーズに応えられるように、様々な講座を用意いたしました。お忙しい中での講座への参加、ありがとうございました。参加された先生方のこれからの教育実践に、少しでもお役に立てるものになれば幸いです。また、講座の折にはアンケートにもご協力頂きましたこと、重ねてお礼申し上げます。アンケートでの先生方の声をもとに次年度の釧研講座を用意していきますので、たくさんのご参加をお待ちしております。

出前講座1・3「学校全体で支える特別支援教育」

講座1 5月 9日（水）釧路町立富原小学校

講座3 6月 6日（水）弟子屈町立弟子屈小学校

今年度は釧路町、弟子屈町の各町研のご協力を頂き、出前講座として、北海道教育大学の二宮信一教授を講師としてお迎えし、特別支援教育の講座を開設しました。

釧路町では講演の中で、インクルーシブ教育の基本的な考え方や、合理的な配慮を行うための例示や実際、また、自校に取り入れる際の方法など、具体的な方法や考え方を分かりやすく提示していただきました。部会協議の前ということもあり、短い時間となりましたが、今後の支援に多くの示唆を頂ける内容となりました。参加者の方からは、「日々の指導に具体的に生かせる内容であった」、「町研のようなたくさんの方が集まる場所でこのような内容の講義が聞けることに意義があった」という意見や、「LGBTなどのはっきり目を向けたことのない内容に触れられて良かった」、「逆にもっと具体的な指導の方法を知りたい」という方もいました。特別支援に関わる内容の関心の高さをうかがえる講座となりました。

弟子屈町では通常学級に在籍する特別な支援を要する児童生徒に関わる支援について、新しい話題を加え、支援の在り方や方法を話題提供して頂きました。授業公開もあり、より具体的な助言がありました。34名の参加者の方からは「普段行っている実践の意味を確認することができた」、「教室の子どもたちの顔を思い浮かべながら聞くことができた。明日から実践していきたい。」など、日々の指導につながる声が多くありました。



出前講座4「できる！図工・美術基礎講座～鑑賞指導を中心に～」

講座4 6月21日（木）鶴居村立下幌呂小学校



下幌呂小学校の明見先生を講師に、図工・美術基礎講座を実施しました。本講座は、鑑賞指導として、指導書に付属してくる「アートカード」を用いた実践でした。

「アートカード」は、その存在と有用性に気づけば、非常に役立つ教材であることがわかりました。公開授業では、児童が楽しみながら、作品の共通点や相違点、表現の工夫に気づいていました。参加者からも「図工の鑑賞の研修は、初めてで、なかなか見る機会がないので大変勉強になった」「自校でも使い方を広めたい」など、充実した講座となりました。

出前講座5「釧路教育研究所研究部による授業」

講座5 6月20日(水) 標茶町立標茶小学校

今回は、標茶小学校の校内研修との抱き合わせで行う新しい形の講座となりましたが、51名という多くの参加がありました。算数の少人数の4クラスの授業公開をしていたのだと、事後研を行いました。「主体的・対話的な学び」についての明確な視点を持った話し合いの中で、活発な意見が交流され、時間いっぱいまで議論が続きましました。参加者からは、「議論が活発に行われたので時間が足りなかった」や「4つの少人数クラスの実践がみられて参考になった」などの声があり、講座が充実したものであったことがうかがえました。



出前講座6「複式教育～指導計画から授業実践～」

講座6 6月27日(水) 標茶町立塘路小学校

生憎の雨の中、6名の方に参加していただき、充実した講座となりました。午前中は、釧路教育局義務教育指導班の佐々木慶典指導主事を講師に迎え、複式における授業づくりについて講義を行っていただきました。講義の中で、基本的な授業構成だけでなく、わたり・ずらしの有効な方法や教材開発について具体的にお話しいただきました。ペアでの演習も行い、どのように指導案を作るのか、参加者の方々に実際に話し合いもしていただきました。午後は、3・4年生の授業を、森和香先生に公開していただきました。3年生が2名、4年生が1名という少人数での授業でした。効果的な課題の提示によって、2名でも話し合いが成立するという場面や、1名でも教師とのやり取りによって思考を深めることができるという場を提示していただきました。事後研では、授業の中での質疑応答だけでなく、その他の教科での複式授業をどう行うのかを森先生に教えていただきました。理科の教材では、領域の同じものを年間計画に位置付けたり、活動する場を共有して活動を行ったりなど、より具体的な方策も提示されました。参加者の方からは、すぐに使えそうなお話を聞いて良かったという意見や、複式の授業を参観できる機会はありませんという意見や、新しい気づきがあったという意見など、好意的なものが多く、好評でした。



事務局通信

■学教研が終了しました。たくさんの先生に参加いただきありがとうございました。学教研は、町村の教育研究所の研究の成果を管内に広げる機会としての役割があります。部会の構成や準備など弟子屈町教育研究所の実践が十分に発揮されたことに感謝しております。各町村研究所の実践にも活かされることがあれば幸いです。■手前味噌で申し訳ないのですが、釧研所員もわずかな情報で要点をつかんで率先して動きました。十分な打合せができなかったことも意図を理解して進んで働く所員の先生はすごいなと思いました。各町村から選出されている所員ですが、各校での教育力の高さをうかがえました。感謝の気持ちも持ちつつ、自分もしっかりしなくてはと改めて思いました。(事務局)

★釧路教育研究所★ 所報287号

発行日：平成30年10月

発行所：釧路教育研究所

発行者：湊谷 美樹治

URL

<http://senken.net/>

E-mail

info@senken.net



アクセス用QRコード